

資料紹介

井上哲次郎「巽軒日記―大正二年上半期―」

村上 こそえ
森本 祥子

翻刻にあたって

明治期から昭和戦前期にかけて哲学者として活躍した、井上哲次郎（一八五五～一九四四）の日記『巽軒日記』の大正二年の上半期分について引続き紹介したい。この年、井上は在職二五年、そして二月には六〇歳を迎える。なお、凡例については本誌第三一号で述べていることから割愛する。

巽軒日記

大正二年（一九一三）「癸丑」上半期

一月

一日、午前、晴天、尚ほ残雪あり、諒闇中なるを以て宮中に拝賀せず、又年始にも赴かず、○年始状封書拾五通、葉書九拾五通、合計百拾通、之に旧冬に到着せる年始状を加ふれば、約百式拾余通、○午后、年始状封書拾通、葉書拾式通合計式拾式通来る、○「大正の新年と婦人の覚悟」大正婦人に出づ、○書状を大町美種に送る、○Henri Bergson, Essai sur les données immédiates de la conscienceを読む、○年始状封書式通来る、○夜、引続き、

Bergsonを読む、○家族年齢如左、

- 主人……………五拾九歳（安政二年十二月廿五日生）
- 縫子……………五拾参歳（文久元年五月十二日生）
- 雪子……………三拾式歳（明治十五年六月十一日生）
- 清子……………二拾式歳（明治廿五年九月廿九日生）
- 宣光……………拾九歳（明治廿八年二月八日生）
- 春枝……………拾六歳（明治三十一年二月十二日生）
- 正勝……………拾四歳（明治三十三年八月廿四日生）
- 益之進……………拾歳（明治三十七年九月二日生）
- 高子……………八歳（明治三十九年十一月廿一日生）

二日、午前、晴天、賀状封書拾五通、葉書参拾六通、合計五拾五通来る、○「宗教變動の徴」経世雜誌に出づ、○文学社より来状、○井上清助より人形老松を送来る、○祝電を富田春山に送る、○賀状葉書拾式通来る、○書状を日柳喬子に送る、○雑誌類を読む、○午后、書状を富尾木知佳に送る、○梶島二郎来談す、○Henri Bergson, Essai sur les données immédiates de la conscienceを読む、○渡辺眞、来りて宣光を診察す、○元旦以来賀者七名、○賀状封書四

通、葉書五通、合計九通、○「中・学・終・身」一千部の奥附を文学社に付与す、○夜、引続き、Bergsonを読む、○「詩経研究」を読む、三日、午前、晴天、賀状封書七通、葉書拾貳通、合計拾九通来る、○Bergson, Essai sur les données immédiates de la conscience を読む、○法貴慶次郎より鴨二羽を送来る、○午后、賀状封書壹通、葉書九通、合計拾通来る、○引続き、Bergsonを読む、○賀状葉書参通来る、○春枝亦患風邪、○来賀壹名、○夜、引続き、Bergsonを読む、○「詩経研究」を読む、○禾原永井久一郎逝く、享年六十二、

四日、午前、晴天、川面凡兒より「日本最古之神道」を、孤田萬一郎より「倫理学」を送来る、○Bergson, Essai sur les données immédiates de la conscience を読む、○賀状封書参通、葉書拾参通、合計拾六通、○井上成美、吉田夫妻及び押田夫妻、興津より絵葉書を送来る、○午后、引続き、Bergsonを読む、○伊澤修二よりビール壺打を送来る、○婦一協会より来状、○賀状封書貳通、葉書貳通、合計四通来る、○宣光、春枝、病未癒、齋藤基次郎来診す、○夜、引続き、Bergsonを読む、○「詩経研究」を読む、

五日、午前、晴天、富尾木知佳及び山鹿高三より来状、○賀状封書五通、葉書五通、合計拾通来る、○浦谷熊吉、補茂茂助来訪す、○午后、宣光稍々軽快、○帝国学士院より来状、○Bergson, Essai sur les données immédiates de la conscience を読む、○永井久一郎及び外崎覚妻の訃報来る、○押田夫妻来訪す、乃ち晚餐を共にす、○夜、引続き、Bergsonを読む、○「詩経研究」を読む、

六日、午前、晴天、富田貞松、本多日生及び黒田家より来状、○賀状葉書四通来る、○書状を黒木安雄に送る、○甲詞を永井壯吉及

び外崎覚に送る、○午后、池末登三郎来訪す、有故不遇、○岩橋遵成、高橋穰、岸田繁次郎、来訪す、○日柳喬子及び松本鷹治より来状、○賀状葉書壹通来る、○藏本増一、東亜協会々員となる、○浅倉屋より浅草苔を送来る、○Bergson を読む、○夜、引続き、Bergson を読む、○「詩経研究」を読む、○中島利一郎より来状、○宣光尚有熱、春枝亦然、

七日、午前、晴天、賀状葉書貳通来る、○Bergson, Essai sur les données immédiates de la conscience を読む、○菊池大麓より「日米教育時言」を送来る、○午后、濱本弥三兵衛、及び中島利一郎より来状、○古川黄一、加藤駒二来訪す、○引続き、Bergson を読む、○野田義夫、書状を縫子に送る、○書状を黒木安雄に送る、○運動に神田に赴く、○夜、藤田季莊来訪す、○春枝軽快、宣光尚有熱、○素行会の講演速記を訂正す、

八日、午前、晴天、文明協会より「生物の世界」及び「欧洲演劇史」を送来る、○吉田熊次夫妻、森良三郎及び高梨悌三来訪す、○阿部維巖及びW. Deningより来状、○小杉熙より蒲鉾を送来る、○賀状封書壹通葉書壹通来る、○午后、宮本和吉、海老名彈正、Robert Cornell Armstrong 及び姉崎正治来訪す、○「聖人と教育」信濃毎日新聞に出づ、○賀状葉書壹通来る、○来賀壹名、○素行会の講演速記を訂正す、○夜、「中・学・修・身」一千部の奥附を文学社に付与す、○引続き講演速記を訂正す、○曹洞宗の速記を訂正す、○賀古耳科医院より医員来りて宣光を診察す、○木村鷹太郎より来状、○賀状葉書壹通来る、

九日、午前、晴天、浦谷熊吉来談す、○書状を小杉熙及び日柳喬子に送る、○葉書参通を発送す、○貞金近松来訪す、○午后、貞金

近松よりジャムと新発明の草紙三冊を送来る、○中島利一郎より来状、○書状を黒木安雄に送る、○浦谷ふみ来る、○Bergson, Essai sur les données immédiates de la conscience を読む、○渡邊眞来りて宣光を診察す、○夜、引続き Bergson を読む、○伊藤吉之助来訪す、○紀平正美より来状、○曹洞宗の速記を訂正す、○山口英爾来談す、

十日、午前、晴天、蓮沼門三及び花見喜代次、雉子老羽を携来る、乃ち談話を筆記せしむ、○石原憲光、菓子箱を携来る、○古川黄一來る、乃ち之に素行会の訂正速記を付与す、○書状を谷本富に送る、○星野恒及び本居豊顕より来状、○午后、曹洞宗の速記を訂正す、○婦一協会に上野精養軒に赴く、○不在中朝永三十郎来訪す、○夜、十時過帰宅、○弘道館及び文成社より来状、

十一日、午前、晴天、蓮沼門三より来状、○講義に高等師範に赴く、○不在中小倉秀道来訪す、○書状を谷口喜太郎及び貞金近松に送る、○中島靖九郎(号芳城)来る、有故不遇、○井上波野来る、乃ち之に「求志洞遺稿」を付与す、○賀状葉書壱通、封書壱通来る、○曹洞宗の速記を訂正す、○夜、引続き速記を訂正す、○岩田晚成処より来状、○書状を藤井健治郎に送る、

十二日、午前、晴天、松浦一、蠣瀬彦藏、小倉秀道、小谷重来訪す、○内藤某、宣光を来診す、○帝国学士院書記来る、○午后、小谷重来訪す、○帝国学士院委員会に赴く、○夜、朝永三十郎の歓迎会に大学山上御殿に赴く、○井本隆雄より「前柴録」を送来る、○由布惟義より来状、

十三日、午前、晴天、湯本倉之助及び本多増次郎より来状、○講義に大学に赴く、○「新年所感」弘道に出づ、○午后、中島靖九郎

来訪す、○浦谷熊吉来談す、○宣光、衄血、○「陽明哲学」五拾部の奥附を富山房に付与す、○文科大学より来状、○「芸術上より観たる道德」丁酉倫理講演集に出づ、○夜、休養、

十四日、午前、晴天、大槻文彦及び蓮沼門三より来状、○岸田繁次郎来談す、○Zeller, Die Philosophie der Griechen を読む、○高子、感冒を患ふ、○橘惠勝、○藤田葆、東亜協会々員となる、○小林一郎来訪す、○「東洋哲学の特色」東洋哲学に出づ、○午后、「学生宝鑑」壱百部の奥附を大倉書店に付与す、○加藤玄智来訪す、○島本愛之助より「欧米道德教育の趨勢」を送来る、○R.C. Arnström より来状、○齋藤基次郎、宣光を来診す、○Zeller を読む、○夜、杉山直喜来る、乃ち談話を速記せしむ、

十五日、午前、晴天、島本愛之助より来状、○賀状葉書式通来る、○学習院に赴く、○午后、教授会に山上御殿に赴く、○中島利一郎及び岡部良英等より来状、○押田清子来談す、○勉強、○夜、引続き勉強、○書状を黒木安雄に送る、○青山胤通より来状、○此日、賀古耳科医院内藤某来る、○鶴子餅料と鯉節とを田中久子、森英子及び松永静子に送る、

十六日、午前、晴天、Zeller, Grundriss der Geschichte der griechischen Philosophie を読む、○研究、○修養団員原宗智来る、有故不遇、○午后、濱本信一夫妻来訪す、○丸尾永助、小笠実成より来状、○杉山直喜より速記を送来る、○講義に大学に赴く、○津山玄道と教員控室に会見す、○Zeller, Die Philosophie der Griechen を読む、○木村鷹太郎より「業平秘史」を送来る、○太田峯三郎より来状、○賀状壱通、○夜、Zeller, Die Philosophie der Griechen を読む、○矢田通の葉書を封入せる書状を貞金近松に

送る、○書状を丸尾永助に送る、○雨、

十七日、午前、晴天、深作安文、浦谷熊吉、岸田繁次郎来訪す、乃ち幹部会を開く、○深作安文と共に昼餐をなす、○午后、博品館に赴く、○夜、書状を塚原政次及び由布惟義に送る、○速記を訂正す、○「名古屋文学史」を読む、〔頁下部に「奇事異聞」の新聞記事切抜貼付（記事に「萬朝」と朱書きあり）〕

十八日、午前、晴天、硫酸会社より来状、○文学社より「修正中学修身」を送来る、○速記を訂正す、○中島利一郎来訪す、○東洋大学より来状、○宣光少しく軽快、○午后、小笠原實成より島根県の名産海苔を送来る、○「中学修身」一千部の奥附を文学社に付与す、○速記を訂正す、○白坂英彦来訪す、○谷本富より来状、○齋藤精輔来談す、○井上成美宣光を来診す、○夜、速記を訂正す、○文成社より来状、○The Japan Chronicleを送来る、○書状を矢田通及び名古屋永昌堂に送る、○雪、

十九日、午前、晴天、残雪、有賀長雄、有志同盟会及び文芸協会より来状、○浦谷熊吉来談す、○山田孝雄より「古京遺文」を送来る、○「師範修身」一千部、「勅語述義」参百部の奥附を晩成処に付与す、○書状を由布惟義に送る、○午后、速記を訂正して之を印刷所に送る、○兎輩四人、押田三郎宅に赴く、○縫子、井上成美宅に赴く、○淺野利三郎、菓子を携へて来る、○詩稿を浦谷熊吉に送る、○小島伊左美より来状、○矢野良曉来訪す、○書状を帝国学士院に送る、○夜、書状を浦谷熊吉に送る、○勉強、○此日、菓子を雙葉会のマダムに送る、○宣光軽快、

二十日、午前、晴天、若木貞一、三省堂及び晩成処より来状、○書状を藤井健治郎に送る、○講義に大学に赴く、○帝国学士院より

使者来る、○吉田豊吉、菓子を携来る、○「聖人と哲人」哲学

雑誌に出で、「教育上二三の重要問題」教育学術界に出づ、○午后、賀古医院の内藤某及び齋藤基次郎、宣光を来診す、○小尾範治、岩崎歌郎来訪す、○書状を浦谷熊吉に送る、○Zeller. Die Philosophie der Griechenを読む、○夜、引続きZellerを読む、

○同文館より来状、○教科書会より書類来る、○松山守善より「時局小言」を送来る、○日之出生命保険会社より来状、○宣光愈軽快、

廿一日、午前、晴天、黒田家より詩稿を送来る、○詩稿を黒木安雄に送る、○所得税四三、七五、府税市税八、九四、宅地租七、五八五、合計六〇、二七五を郵便局に納む、別に巢鴨宅地租一〇、余を村役場に納む、○縫子を三井銀行に遣はす、○名古屋の永昌堂より「名古屋文学史」を送来る、○書状を淺野利三郎及び藤田誠に送る、○森良三郎来談す、○為換を永昌堂に送る、○Zeller. Die Philosophie der Griechenを読む、○午后、朝永三十郎妻、姉崎袖子及び大島正徳来訪す、○樋口秀雄より書状及び「近代思想の解剖」を送来る、○引続きZellerを読む、○吉田雪子来談す、○小谷重来る、乃ち之に「修身例語辞典」を付与す、○押田三郎夫妻、見舞の為に来る、○夜、木村鷹太郎及び帝国学士院より来状、

廿二日、午前、雨天、学習院に赴く、○密教社より来状、○賀状葉書壺通来る、○午后、Zeller. Die Philosophie der Griechenを読む、○浦谷熊吉より来状、○午后、引続きZellerを読む、○岸田繁次郎来談す、○塚原政次より来状、○雨霽れて虹出づ、○夜、勉強、

廿三日、午前、晴天、神奈川県知事大島久滿次及び事務官白坂栄彦より来状、○中根淑（香亭と号す）廿一日を以て長逝すとの報あり、

香亭天保八年を以て生る、享年七十七、晩年興津に孤独生活を送る、○浦谷熊吉来談す、○Zeller, Grundriss der Geschichte der griechischen Philosophie 及び Lewes, History of Philosophy を読む、○午后、女中千代を大学に遣はす、○講義に大学に赴く、○「晏子春秋」を読む、○「東亜の光」口絵を印刷所に送る、○夜、中村安太郎及び浅野利三郎より来状、○Zeller, Die Philosophie der Griechen 及び Lewes, History of Philosophy を読む、○「晏子春秋」を読む、

廿四日、午前、晴天、亀井忠一より来状、○田中義能、岡田誠一來訪す、○文学社より「中学修身」二部を送来る、○「晏子春秋」及び Lewes, History of Philosophy を読む、○午后、井上道喜、齋藤愛子、朝永三十郎、松信定雄来訪す、○「教界春秋」を草す、○縫子、朝永三十郎宅及び中島徳藏宅を訪うて、それ／＼菓子を贈る、○桑田芳藏来訪す、○「教界春秋」を草す、

廿五日、午前、晴天、三省堂整理委員より来状、○講義に高等師範に赴く、○今井昇輔、河瀬秀治の代理として来る、○午后、「教界春秋」を草して之を印刷所に送る、○林勃爾、貞金近松、浦谷熊吉、来訪す、○婦一協会の記事を訂正して之を松信定雄に送る、○小尾範治及び押田三郎、東亜協会々員となる、○晏子春秋及び呂氏春秋を読む、○由布惟義より来状、○印刷所より「東亜の光」口絵を送来る、○吉田雪子来る、乃ち俱に晚餐をなす、○夜、「東亜の光」口絵解題を印刷所に送る、○呂氏春秋を読む、○Zeller, Die Philosophie der Griechen を読む、○此日、金港堂より「中学修身」一部を送来る、

廿六日、午前、晴天、矢野良暁来訪す、有故不遇、○吉田静致来訪

す、○呂氏春秋を読む、○Zeller, Die Philosophie der Griechen を読む、○午后、在莱府友枝高彦より来状、○書状を朝永三十郎に送る、○細川義方来訪す、○呂氏春秋を読む、○引続々Zeller を読む、○独逸より M. Kramer, Grundlagen einer organischen Weltanschauung 及び Reinhold Geijer, Die Situation auf dem psychologischen Arbeitsfeld を送来る、○夜、呂氏春秋を読む、○千葉亀雄より来状、○勉強、○宣光全快、

廿七日、午前、晴天、講義に大学に赴く、○午后、千葉亀雄来る、乃ち談話を筆記せしむ、○縫子、益之進を拉して押田三郎宅に赴く、○渡邊寛一來訪す、○Zeller, Die Philosophie der Griechen を読む、○補永茂助来訪す、○夜、引続々Zeller を読む、○浅野利三郎より来状、○呂氏春秋を読む、○此日、午前三省堂員小川善七来談す、

廿八日、午前、晴天、Zeller, Die Philosophie der Griechen を読む、○浦谷熊吉来談す、○午后、書状を浅野利三郎に送る、○押田三郎宅に赴く、○千葉亀雄より筆記を送来る、○筆記を訂正す、○夜、心理学会に山上御殿に赴く、○小倉秀道より来状、○筆記を訂正して之を千葉亀雄に送る、○American Association for international Conciliation より来状、

廿九日、午前、晴天、学習院に赴く、○上宮教会より来状、○賀状葉書壺通来る、○午后、雨天、Zeller, Die Philosophie der Griechen を読む、○縫子、元良宅に赴く、○Lewes, History of Philosophy を読む、○夜、伊藤吉之助来談す、○勉強、○暁星学校より来状、

三十日、午前、晴天、富田いは及び全政喜より来状、○研究、○「古

事類苑」(人部二)を送来る、○午后、講義に大学に赴く、○本多日生より来状、○「青年学生の勉強法」実業之日本に出づ、○「呂氏春秋」を読む、○夜、星菊太来訪す、

廿一日、午前、晴天、森良三郎来る、○帝国会計協会より来状、○Armstrong, Japanese Philosophy の序文を草す、○午后、英文の序を草して之を R.C. Armstrong に送る、○福来友吉来訪す、○夜、哲学会に山上御殿に赴く、○不在中岸田繁次郎来訪す、○帰一協会より来状、○此日、帝国学士院より使者来る、○大野太衛、書状を携来る、○省軒亀谷行逝く、享年七十六、

二月

一日、午前、晴天、統一団より来状、○小倉秀道来る、乃ち談話を筆記せしむ、○浦谷熊吉、岸田繁次郎来談す、○「東亜の光」(八の二)成る、○「国民思想の矛盾」東亜の光に出づ、○亀谷省軒の訃報来る、○「呂氏春秋」を読む、○午后、「呂氏春秋」及び「省軒文稿」并に「省軒詩稿」を読む、○朝永三十郎及び宮川半助より来状、○床屋に赴く、○夜、上宮教会に赴き、「人間の本性と修養」を演述す、○河瀬秀治、東亜協会々員となる、○本年一月元旦以来の来賀者拾数名、賀状封書六拾六通、葉書貳百拾七通、

二日、午前、晴天、Zeller, Die Philosophie der Griechen を読む、○手塚光貴、久保良英、岸田繁次郎来訪す、○森良三郎来談す、○午后、「呂氏春秋」を読む、○藤田義雄より来状、○勉強、○「岡山県人物伝」及び「名古屋文学史」を読む、○夜、勉強、○在鹿児島江部淳夫より絵葉書来る、○塩井正男(号雨江) 昨一日逝去の訃報来る、享年四十五、

三日、午前、晴天、講義に大学に赴く、○午后、渡邊徹、浦谷熊吉、

葉山萬次郎、得能文妻、有馬祐政来訪す、○羽生白玄来る、乃ち談話を筆記せしむ、○黒田家の使者、詩稿と中島利一郎の書状とを携来る、○中熊直喜より来状、○Zeller, Die Philosophie der Griechen を読む、○「明治天皇陛下の御人格」東洋時報に出づ、○夜、節分、文科大学より来状、○引続き Zeller を読む、

四日、午前、晴天、書状を塩井健男、大沼正名及び亀谷清一に送る、○黒田侯の詩稿を黒木安雄に送る、○Zeller, Die Philosophie der Griechen を読む、○書状を在樺太大泊の田中伊藤次に送る、○長野県師範学校長星菊太より来状、○午后、「農業修身」壹百部及び「女子修身」貳百部の奥附を金港堂に付与す、○引続き Zeller を読む、○運動に巢鴨に赴く、帰途、押田三郎に逢ふ、○夜、書状を岸田繁次郎に送る、○Friedrich Paulsen, System der Ethik を読む、

五日、午前、晴天、学習院に赴く、○午后、教授会に山上御殿に赴く、○不在中中島靖九郎来訪す、○書状を姉崎正治に送る、○鈴木宇良安より来状、○晚成処より「師範修身」六百部の奥附を送来る、乃ち捺印して之を藤井健治郎に送る、○夜、Lewes, History of Philosophy を読む、○石川利之、帝国学士院及び日之出生命保険会社より来状、○石川利之より「資行伝後編」を送来る、

六日、午前、小雨、古俣三三二より来状、○女中きよを日之出生命保険会社に遣はす、○勉強、○Zeller, Grundriss der Geschichte der griechischen Philosophie を読む、○「日本仏教全書」一冊を送来る、○黒田家より書状を添へ、鴨四羽を送来る、○午后、講義に大学に赴く、○帰一協会に上野精養軒に赴く、○黒田家より来状、○夜、九時半頃帰宅、

七日、午前、晴天、堀謙徳及び補永茂助より来状、○森良三郎、大工を伴うて来る、○浦谷熊吉来談す、○長野県師範学校長星菊太、東亜協会の員となる、○書状を黒木安雄に送る、○「呂氏春秋」を読む、○午后、引続き「呂氏春秋」を読む、○井上成美、岸田繁次郎来談す、○晚成処より「師範修身」二冊を送来る、○夜、興学会に山上御殿に赴く、○米国桑港国民新聞より来状、○「移住地に於ける日本国民の覚悟」桑港国民新聞に出づ、○「女子修身」一千三百部、「師範修身」一百部及び「新編修身」一千九百部の奥附を金港堂に付与す、○ American Association for International Conciliation より来状、○教科書会より書類来る、

八日、午前、晴天、晚成処より奥附を送来る、○大正之青年社より来状、○書状を黒木安雄に送る、○講義に高等師範に赴く、○午后、「朱子哲学」五拾部の奥附を富山房に付与す、○伊藤吉之助及び元良未亡人来訪す、○「師範修身」拾二部の奥附を晚成処に送る、○書状を「大正之青年社」及び岸田繁次郎、関野貞、由布惟義に送る、○蟹江操子より来状、○「呂氏春秋」を読む、○夜、書状を鈴木宇良安に送る、○「呂氏春秋」を読む、○書状を堀謙徳に送る、

九日、午前、晴天、浦谷熊吉、岩橋遵成来訪す、○板橋卓一、杉浦千頭二氏の紹介状を携来る、○午后、麻生正藏、曾根松太郎、岸田繁次郎来訪す、○葉山萬次郎、「聖学入門」を携来る、○書状を小林一郎に送る、○夜、哲学会に山上御殿に赴く、グライフスブルド大学の私教授ヤコビー「一独逸のプラグマティスト」に就いて講演をなす、○此頃、政界不穩、

十日、午前、晴天、蓮沼門三より来状、○講義に大学に赴く、○午后、

小林一郎より来状、○ Zeller. Die Philosophie der Griechen を読む、○井上道喜、来談す、○文科大学より来状、○夜、引続き Zeller を読む、○此日、民衆動乱、全都騒擾、国民、二六、やまと、読売、報知の諸新聞社襲はる、

十一日、午前、晴天、紀元節、服部宇之吉父喜平の訃報来る、○渡辺忠吉来る、乃ち談話を筆記せしむ、○ R. C. Armstrong より来状、○午后、姉崎正治宅より使者来る、○埼玉県学友会に赴き、「勉強と修養」を演説す、聴衆約百名、澁沢栄一、本多日生、斎藤阿具、山中隣之助等と会見す、○浅野利三郎、斎藤孝治、中島利一郎より来状、○不在中岸田繁次郎来訪す、○夜、杉山直喜来る、乃ち談話を速記せしむ、○黒田家より来状、○此日、縫子、井上道喜を齋藤省三宅に訪ひ、菓子を井上健兒、富田順吉、吉武誠、井上淳及び井上末宅に送る、○「聖学入門」を読む、

十二日、午前、晴天、女中きよを岸田繁次郎宅に遣はす、○書状を黒木安雄に送る、○「群衆心理の偉力」朝日新聞に出づ、○素行会より「兵法伝統録」と「山鹿素行全集」とを送来る、○岸田繁次郎、小熊虎之助、綿貫哲雄来訪す、○弘道館より「教育的倫理学講義」「欧米道教育の趨勢」「叙述と迷信」及び「哲学概論」を送来る、○ Zeller. Die Philosophie der Griechen を読む、○此朝研究事項多きを以て学習院に赴かず、○午后、貞金近松、藤田誠来訪す、○ Zeller. Die Philosophie der Griechen を読む、○教科書会より書類来る、○夜、春枝、感冒に罹り、発熱三十八度以上に及ぶ、渡辺眞来診す、○書状を黒木安雄に送る、○勉強、○書状を岸田繁次郎に送る、○文科大学より来状、

十三日、午前、晴天、勉強、○渡辺徹来訪す、○書状を服部宇之吉

に送る、○「実業、道德の觀念」企業及経営に出づ、○午后、書状を浦谷熊吉に送る、○講義に大学に赴く、○教科書会に文部省に赴く、○夜、統一団に浅草に赴き、「儒教と国民思想」を講述す、○文成社より来状、○杉山直記より速記を送来る、十四日、午前、晴天、白坂栄彦、渡辺徹、及び大槻文彦より来状、○文成社員来る、乃ち談話を筆記せしむ、○浦谷熊吉、岸田繁次郎、深作安文、春山青次郎来訪す、○午后、書状を中島利一郎に送る、○日本学会の案内状六通を発送す、○教授会に山上御殿に赴く、○不在中尾上八郎、「日記の端より」を携来る、○山中六彦より来状、○書状を古俣三三二に送る、○婦一協会及び太宰府神社より来状、○此日、川端玉章逝く、享年七十二、十五日、午前、晴天、福岡県教育会長由布惟義より来状、○「青年学生勉強法」実業之日本に出づ、○佐伯常磨、岡正一來訪す、○文明協会より「今日の科学思想」及び「資本及収入論」を送来る、○松浦の使者来る、乃ち之に「山鹿素行全集」を付与す、○日本学会案内状四通を発送す、○午后、書状を姉崎正治に送る、○大日本宗教協会より来状、○姉崎益子来る、○大学第二学生集会所に赴き、ヤコビー氏最後の講義を傍聴す、○夜、心理学会に赴く、○不在中井手百合子来訪す、○文科大学及び実業之日本社より来状、○此日、文学博士本居豊顕逝く、享年八十、十六日、午前、晴天、小澤錦十郎より来状、○川端玉章の訃報来る、○森良三郎、浦谷熊吉、井手百合子来訪す、○梶島二郎より来状、○本居豊顕の訃報来る、○速記を訂正す、○浅野利三郎来訪す、○午后、速記を訂正す、○原稿を印刷所に送る、○書状を小杉熙に送る、○大塚先儒墓地保存会に山上御殿に赴く、○夜、日本学

会に赴く、来会者約三十名、

十七日、午前、晴天、講義に大学に赴く、○岸田繁次郎、森良三郎来談す、○塚原政次より来状、○押田清子、来りて会食す、○午后、浦谷熊吉来談す、○統一団より御札を送来る、○岸田繁次郎をして川端玉章の葬式に会せしむ、○藤田季莊来訪す、○校正をなす、○米人 Henry Heimann, The True statistical Basis of Science と書状とを送来る、○文部省より書類来る、○夜、校正をなして之を素行会に送る、○書状を浦谷熊吉に送る、○木場貞長より堀印刷物を送来る、○此頃阿部秀助、東亜協会々員となる、

十八日、午前、晴天、文明協会より来状、○Zeller, Die Philosophie der Griechen 及び Grundriss der Geschichte der griechischen Philosophie を読む、○勉強、○縫子を東海銀行に遣はす、○帝国学士院書記来る、○午后、引続き Zeller を読む、○岸田繁次郎をして本居豊顕の葬式に会せしむ、○岸田繁次郎来る、○元良米子及び暁星学校長 Henri より来状、○黒木安雄より詩稿を送来る、○中島利一郎来る、乃ち之に詩稿を付与す、○同文館より来状、○夜、文科大学より来状、○F. Paulsen, System der Ethik を読む、○婦人画報社より来状、

十九日、午前、小雨、学習院に赴く、○帰途暁星学校に赴き、校長 Henri 及び Beuf 等と会見す、○「群集心理の偉力」鹿児島実業新聞に出づ、○午后、晴天、書状を浦谷熊吉及び帝国学士院に送る、○Zeller, Die Philosophie der Philosophie を読む、○夜、引続き Zeller を読む、○文科大学より来状、○勉強、○帝国学士院より来状、○此日、小柳司氣太、「墨子問詁」(漢文大系第十四)を贈る、二十日、午前、晴天、神田大火、午前一時に発火し、全八時に鎮火

す、○車夫を井上成美宅及び其他に遣はす、○勉強、○午后、講義に大学に赴く、○黒田家より詩稿を送来る、○黒木安雄より詩稿を送来る、○詩稿を黒田家に送る、○夜、井上健兒全淳より電報来る、乃ち返電を送る、○詩稿を黒木安雄に送る、○勉強、○夜、半、若松港の大町阿部二氏より電報来る、○此日、内閣組織成る、○奠南山田喜之助逝く、享年五十五、○押田清子来る、廿一日、午前、曇天、山岸光宣来訪す、○十時頃出発、横浜に向ふ、○午后、一時より三時迄神奈川県講習会に高等女学校に莅み、「日本の武士道学派」に就いて講述す、聴衆四百余名、○夜、七時頃帰宅、○大江文城及び本多日生より来状、○齋藤基次郎及び吉田雪子来談す、「明治天皇陛下の御人格」東洋時報に出づ、○此日、返電を若松港の大町及び阿部二氏に送る、

廿二日、午前、曇天、有馬祐政及び鈴木宇良安より来状、○大江文城より菓子(歌仙松風)と「若松強齋先生事歴」とを送来る、○午后、神奈川県講習会に赴く、○不在中井上波野来る、○夜、後藤新平より招待状来る、○書状を大江文城、井上成美、黒木安雄に送る、

廿三日、午前、晴天、小谷重、加藤末吉、呉秀三、佐伯常麿、浦谷熊吉、岸田蒔夫、来訪す、○女中きよを岸田繁次郎宅に遣はす、○午后、矢野滄浪より来状、○「実業修身」百五十部の奥附を文学社に付与す、○勉強、○岸田繁次郎をして山田喜之助の葬式に会せしむ、○墨子問語を読む、○夜、墨子問語を読む、○素行会より校正を送来る、○校正を素行会に送る、○勉強、○風強し、

廿四日、午前、曇天、講義に大学に赴く、○山田喜之助会葬の礼状、○女中ちよを大学に遣はす、○「教界春秋」を草す、○哲学会よ

り為換を送来る、○午后、晴天、金港堂より書状と奥附とを送来る、○元良米子、山岸光宣、秋山悟庵、帝国学士院書記来訪す、○「教界春秋」を草す、○井上匡四郎より来状、○夜、「教界春秋」を印刷所に送る、○藤田季莊来訪す、○書状を黒木安雄に送る、○「修身例話辞典」の序を小谷重に送る、○原稿を文成社に送る、

廿五日、午前、曇天、内ヶ崙作三郎及び内堀維文より来状、○拓殖博覽会事務報告を送来る、○Zeller: Die Philosophie der Griechen 及び Grundriss der Geschichte der Geschichte der griechischen Philosophie を読む、○電柱架設の為に工夫数人来る、○午后、雪、後小雨、引続きZellerを読む、○教科書会より書類来る、○夜、帝国大学より来状、○引続きZellerを読む、○井上成美より来状、○又雪、

廿六日、午前、曇天、満都白雪皚々、学習院に赴く、○帰途車中元良米子に逢ふ、○午后、晴天、小野田亮正来る、○Zeller: Die Philosophie der Griechen を読む、○富田貞松、全俊夫より来状、○夜、引続き、Zeller を読む、○勉強、○兵庫伊丹図書館より来状、

廿七日、午前、晴天、帝国学士院より来状、○勉強、○午后、講義に大学に赴く、○帰途坪井正五郎宅に立寄る、○岸田蒔夫、中央会堂及び石川貞吉より来状、○浦谷熊吉来談す、○縫子、吉田宅に招燕せられて赴く、○夜、書状を大学の庶務課に送る、○休養、

廿八日、午前、晴天、「中学修身」五百部の奥附を文学社に付与す、○縫子、押田三郎宅に赴く、○桑木嚴翼より「哲学綱要」を送来る、○書状を桑木嚴翼に送る、○四宮兼之来る、○Höftling, Psychologie in Umrissen を読む、○午后、曇天、原稿を素行会

に返送す、○教科書会に文部省に赴く、○不在中白坂栄彦、県知事の礼状を携来る、○三上参次の使者に「学脈弁解」を付与す、○佐伯有義、「大日本神祇史」を携来る、○夜、丹羽瀧男来る、乃ち談話を速記せしむ、○岸田繁次郎、「東亜の光」(八の三)拾部を携来る、○建部遯吾及び小倉秀道より来状、○「青年学生勉強法」実業之日本に出づ、

三月

一日、午前、晴天、大学記念日、諒闇中なるを以て式を行はず、○暁星学校及び帰一協会より来状、○帰一協会より会報二部を送来る、○森良三郎来る、○Höfding, Psychologie in Umrissenを読む、○會田勘左衛門、御礼の為に菓子料を携来る、○午后、曇天、引続きHöfdingを読む、○縫子、すみれ会に葉山萬次郎宅に赴く、○博品館に赴く、○夜、引続きHöfdingを読む、
 二日、午前、晴天、谷内正順、岸田繁次郎、浦谷熊吉来談す、○渡辺寛一、御礼の為に来る、○Max Verworn, Psychophysiological Prousten Studienを読む、○午后、引続きVerwornを読む、○元良博士追悼講演会に大学に赴き、「哲学と心理学との関係」を演述す、○夜、会食に山上御殿に出づ、永井潜、丘淺次郎、富士川游、石川貞吉等と会見す、
 三日、午前、晴天、風見謙次郎より来状、○講義に大学に赴く、○文学博士原秀四郎逝去の訃報来る、○午后、書状を原眞十郎、白坂栄彦、小笠原実成に送る、○浦谷熊吉、春山育次郎、犬塚岸三、有馬祐政来訪す、○文科大学及び中島利二郎より来状、○夜、Zeller, Die Philosophie der Griechenを読む、○「名か利か」向

上に出づ、○此日、成瀬仁藏帰朝、

四日、午前、晴天、帝国学士院より使者来る、○「女子修身」五千三百五十部、「農業修身」一百部及び「師範修身」一百七十部の奥附を金港堂に付与す、○Zeller, Die Philosophie der Griechenを読む、○吉田雪子来談す、○午后、引続きZellerを読む、○押田清子来談す、○成瀬仁藏のThe Concordia Movementを新約克市より送来る、○勉強、○夜、勉強、
 五日、午前、晴天、学習院に赴く、○午后、教授会に山上御殿に赴く、○濱尾新より来状、○上宮教会より御礼を送来る、○夜、哲学科懇親会に山上御殿に赴く、○帝国学士院より来状、○十時半頃帰宅、
 六日、午前、晴天、勉強、○午后、講義に大学に赴く、○「師範修身」百七十八部、「女子修身」四百四十五部及び「新編修身」四千五百部の奥附を金港堂に付与す、○五十嵐爾三郎より来状、○前川文栄閣来る、乃ち之に「釈迦牟尼伝」五百部の奥附を付与す、○「実験修身教授法」の序を草す、○夜、序文を草し了る、○大石長作及び大塚先儒墓所保存会より来状、○此日、嘉納治五郎帰朝、○松信定雄より書状と原稿とを送来る、
 七日、午前、曇天、序文を加藤末吉に送る、○秋山悟庵、浦谷熊吉、高塚幾治郎来訪す、○女中千代を三井銀行に遣はす、○午后、「新編修身」八千部の奥附を金港堂に付与す、○加藤末吉より来状、○研究、○土屋新之助来訪す、○帰一協会に上野精養軒に赴く、○夜、十時半頃帰宅、○高等師範より来状、○強風、
 八日、午前、晴天、堀謙徳より来状、○博文館より奥附二千五百枚を送来る、○講義に高等師範に赴く、○「大日本仏教全書」を送

来る、○午后、成瀬仁藏来談す、○「新編修身」二千五百部の奥附を金港堂に付与す、○「呂氏春秋」を読む、○研究、○夜、研究、○中島利一郎より書状と詩稿とを送来る、

九日、午前、晴天、小澤錦十郎及び濱尾新等より来状、○三島復来訪す、○護国寺に赴き、大塚先儒墓所保存会に莅む、坂谷芳郎、

澁澤栄一、山川健次郎、小牧昌業、股野琢等と会见す、〔頁下部に〕先賢地下に饗けん「儒者棄場愈々市の名勝となる」の新聞記事切抜貼付〕○不在中田中義能、天生目一治等来訪す、○浦谷熊吉、大倉保五郎来訪す、○中島徳藏より餅と鯉節とを送来る、○小牧昌業より「薩摩史談集」を送来る、○研究、○「呂氏春秋」を読む、○夜、岸田繁次郎来談す、○研究、

十日、午前、晴天、西村豊より来状、○講義に大学に赴く、○午后、島中雄作来る、乃ち談話を筆記せしむ、○寺澤鎮来訪す、○土屋新之助来る、乃ち談話を筆記せしむ、○文科大学、若木廣良、山中六彦より来状、○書状を黒木安雄、若木廣良及び西村豊に送る、○詩稿を黒木安雄に送る、○中島靖九郎より使者来る、○文科大学より書類来る、○書状を小牧昌業に送る、○岸田蒔夫、原稿を携来る、○夜、文成社員来る、乃ち談話を筆記せしむ、○Zeller, Die Philosophie der Griechen を読む、

十一日、午前、晴天、森良三郎、浦谷熊吉来談す、○Zeller, Die Philosophie der Griechen を読む、○午后、水島耕一郎来訪す、○勉強、○「倫理と教育」の奥附(壹百部)を弘道館に付与す、○服部宇之吉より来状、○専攻科学生の招待に茗溪会に赴く、○夜、西村豊より来状、○教科会より書類来る、

十二日、午前、晴天、「中学修身」一千五百部の奥附を文学社に付

与す、○学習院に赴く、○「木石にも魂はある」讀岐日々新聞に出づ、○午后、教授会に山上御殿に赴く、○夜、帝国学士院に赴く、十三日、午前、晴天、研究、○午后、講義に大学に赴く、○小谷重より来状、○夜、「呂氏春秋」及び「二程全書」を読む、○岸田繁次郎より来状、○姉崎正治より来状、

十四日、午前、晴天、西田快忍来る、乃ち談話を筆記せしむ、○寺澤鎮来る、乃ち談話を筆記せしむ、○浦谷熊吉、堀謙徳来訪す、○書状を貞金近松に送る、○「木石にも魂はある」芸備日々新聞に出づ、○「青年の政治趣味と愛国心」日本及日本人に出づ、○「近代思想の解剖」を小林一郎に送る、○「呂氏春秋」を読む、○午后、宮本和吉来談す、○書状を大島健一に送る、○文明協会より「生物学的的人生観」及び「近代思想界の変遷」を送来る、○「呂氏春秋」を読む、○夜、杉山直喜来る、乃ち談話を速記せしむ、○此日、縫子、押田宅に赴く、

十五日、午前、晴天、濱尾新及び東洋心理協会等より来状、○高等師範に赴き、試験を行ふ、○「呂氏春秋」を読む、○「実業修身」壹百部の奥附を六盟館に付与す、○午后、岡部為吉来訪す、○「呂氏春秋」を読む、○文成社より原稿を送来る、○教科書会より書類来る、○高等師範より答案を送来る、○中島利一郎より詩稿を送来る、○夜、原稿を文成社に、詩稿を黒木安雄に送る、○試験の答案を読む、○報徳会及びマニユフ、クチュラスより来状、

十六日、午前、晴天、風見謙次郎、折田彦市等より来状、○谷内正順、西田敬止、春山育次郎、長井眞琴、千葉亀雄、嶋瀬彦藏来訪す、○答案を読む、○午后、「呂氏春秋」を読む、○答案を読了る、○書状を高等師範に送る、○杉山直喜より速記を送来る、○夜、

服部宇之吉より袱紗を送来る、○「呂氏春秋」を読む、○勉強、十七日、午前、小雨、廣田直三郎及び修養団島田支部より来状、○講義に大学に赴く、○杉山直喜より速記を送来る、○午后、秋山悟庵、亀谷凌雲、岸田繁次郎、岩橋遵成及び女中きよの母来訪す、○帝国学士院の使者来る、○Lewes, History of Philosophyを読む、○夜、速記を訂正す、○此頃「読書の趣味」読売新聞に出づ、十八日、午前、晴天、彼岸の入、速記を訂正す、○午后、曇天、速記を訂正す、○峰間信吉より来状、○峰間信吉、橋本文壽、荻原擴、勝島林藏、近藤正治、佐藤廣治、卜部岩太郎、竹林貫一、内野台嶺、黒田傳次郎、熊澤圭三、久米卯之彦、矢澤邦彦、神逸郎、総計拾四名、東亜協会々員となる、○原稿を日清印刷会社に送る、○押田三郎、上州河原湯温泉より絵葉書を送来る、○歯医者に赴き、尋いで大塚より小日向を運動して帰る、○浦谷熊吉来談す、○文科大学より来状、○夜、勉強、十九日、午前、雨天、学習院に赴く、○帰途歯医者に赴く、○車中乃木大将「所感録」を読む、○午后、曇天、教授会に山上御殿に赴く、○九鬼周造来訪す、○夜、哲学会に山上御殿に赴く、○岸田繁次郎より来状、○希臘王ジョージ一世、十八日サロニカに於て社会主義者シナスの為に狙撃せられて崩す、二十日、午前、半晴、研究、○「木石にも魂はある」新潟新聞に出づ、○午后、晴天、講義に大学に赴く、○大学より「大日本古文書」(附録之一)を送来る、○由布惟義より来状、○夜、北村沢吉来訪す、○帝国学士院より来状、

廿一日、午前、曇天、春季皇靈祭、春山育次郎、浦谷熊吉、阿藤俊雄、大壁早治、鷺尾順敬、来訪す、○岸田蒔夫より書状と原稿と

を送来る、○早川千吉郎より来状、○午后、松原一義、元田肇の書状と書籍とを携来る、○宮田脩来訪す、○「女子修身」二千部の奥附を金港堂に付与す、○史学会及び高須梅溪より来状、○夜、雨天、岸田繁次郎、浦谷熊吉、伊藤吉之助来談す、○書状を黒木安雄に送る、

廿二日、午前、曇天、玉置徳全来訪す、○同文館の速記を訂正す、○午后、東亜協会の文学研究会に山上御殿に赴く、来会者二十余名、○夜、九時半頃帰宅、○笹倉新治より来状、○A. Gramatzkyより絵葉書来る、○月蝕、

廿三日、午前、晴天、春山育次郎、豊田臻、江口国彦、来訪す、○阿藤俊雄来る、乃ち談話を筆記せしむ、○大倉書店より印税を送来る、○若木廣良より来状、○午后、曇天、縫子、春枝、と買物に出づ、○子爵酒井忠一来訪す、○書状を笹倉新治に送る、○Henri Bergson, Essai sur les données immédiates de la conscienceを読む、○「新編修身」四千六百九拾部の奥附を金港堂に付与す、○夜、書状を高塚幾治郎に送る、○「伊洛淵源続録」を読む、○此日、Bridel逝く、享年六十二、

廿四日、午前、曇天、講義に大学に赴く、○三上参次を史料編纂に訪ふ、○木川又吉郎、森良三郎来訪す、○午后、武内紫明来る、乃ち談話を筆記せしむ、○山岸光宣、千葉勉、浦谷熊吉、高須梅溪来訪す、○川面九兒、「日本民族宇宙観」を携来る、○「家族制度と祖先崇拜」神社協会雑誌に出づ、○夜、雨天、「教界春秋」を草す、

廿五日、午前、曇天、「教界春秋」を草し了りて之を印刷所に送る、○所得税金四拾参円七拾五銭、及び府税市税金八円九拾四銭、合

計金五拾貳円六拾九銭を郵便局に納む、○学習院女学部に赴き、専修科の生徒と午餐を共にす、○博文館より「武士道叢書」の奥附千枚(中巻五百下巻五百)を送来る、○午后、井上波野来談す、○Bergson, Essai sur les données immédiates de la conscience を読む、○芳賀矢一より来状、○「武士道叢書」一千部の奥附を博文館に送る、○書状を由布惟義に送る、○夜、雑誌類を読む、○少しく喉頭加答児の気味あり、○休養、
廿六日、午前、晴天、東亜の光口絵来る、乃ち解題して之を印刷所に送る、○政教社より来状、○此日、熱あり、臥褥、○夜、山上御殿に孔子教研究の会あり、不赴、○婦一協会より来状、
廿七日、午前、晴天、姉崎正治代りて淑徳女学校の卒業式に赴く、○晚成処より小包を送来る、○「戊申詔書述義」二百五十部の奥附を晚成処に送る、吉田熊次代りて暁星学校卒業式に赴く、○吉田雪子来る、○午后、井上成美来る、○大倉書店より「学生宝鑑」を送来る、○晚成処より来状、○夜、吉田熊次来訪す、○「実業修身」三百五十部及び「中学修身」一千部の奥附を文学社に付与す、○此日、帝国議会閉会、
廿八日、午前、晴天、野口米次郎来訪す、○晚成処より小包を送来る、○渡辺眞来診す、○宣光、肺炎の萌あり、○姉崎正治代りて成女学校卒業式に赴く、○栗原英之助より来状、○午后、金港堂より「修身例話辞典」を、文部省より「国定教科書意見報告彙纂」を送来る、○此頃木川又吉郎、牧瀬五郎来訪す、○石田某、菓子箱と「修道講話」を携来る、○夜、井上成美来談す、○早川千吉郎の招燕を辞す、
廿九日、午前、晴天、教科書会より来状、○吉田熊次、岸田繁次郎

来る、○齋藤基次郎、渡辺眞来診す、○午后、深作安文、松原一義来訪す、○夜、風雨、○少しく軽快、○九鬼隆一の招燕を辞す、○宣光亦軽快、
三十日、午前、晴天、田中秀明、「和事始」を携来る、○由布惟義より来状、○晚成処より奥附を送来る、○小杉熙、谷内正順、成瀬仁藏、来訪す、○黒川眞道、書籍を携来る、○午后、高等師範より来状、○奥附拾数枚を晚成処に送る、○夜、博物館及び暁星中学より来状、○此日、「勅語教本」三〇〇部、「師範修身」五〇〇部の奥附を晚成処に付与す、

卅一日、午前、晴天、吉田熊次来談す、○書状を帝国学士院に送る、○碑文を修正す、○石田彦三郎来訪す、○午后、森良三郎、春山育次郎来談す、○碑文を修正す、○「女子修身」四八〇部、「農業修身」五〇部、「新編倫理」一〇〇部の奥附を金港堂に付与す、○桑原武吉、井上成美来訪す、○夜、国語調査会及び宮田修より来状、○「東亜の光」(八の四)成る、○「憲政の実現と建国の大義」東亜の光に出づ、○此頃「小学教師の修養」小学校に、「憲政論」中央公論に出づ、

四月

一日、午前、晴天、井上成美来る、乃ち碑文及び他の文章を修正して之を付与す、○成美と昼食を共にす、○午后、谷内正順、伊藤吉之助、宇野哲人、石田彦三郎及び深作安文妻来訪す、○前川清より来状、○書状を貞金近松に送る、○「釈迦と人生」日本宗教新聞に出づ、○夜、伊藤吉之助、西沢富則来訪す、○大塚先儒墓所保存会より来状、
二日、午前、晴天、浦谷熊吉、谷内正順来訪す、○「実業修身」壹

百部の奥附を六盟館に付与す、○女中千代を文部省及び三井銀行に遣はす、○「修養と読書」読書之友に「時代の悪化と救済」国民時報に出づ、○午后、教科書会に文部省に赴く、○不在中武内紫明来訪す、○桜花半開く、○原真十郎より来状、○「政変と教育家の覚悟」内外教育評論に、「修養と勉学」向上に出づ、○夜、入間郡教育会頭市川春太郎より来状、○Max Verworn, Psychophysiological Protisten-Studien を読む、○此日、笹川種郎老母来訪す、

三日、午前、曇天、森良三郎、井上清助、齋藤省三来談す、○Max Verworn, Psycho-physiologische Protisten-Studien を読む、○縫子、益之進及び高子を拉して外出す、○午后、書状を白坂栄彦及び山中立木に送る、○藤澤利喜太郎より来状、○引続きMax Verworn を読む、○岸田繁次郎、淺野利三郎来訪す、○田中秀明より来状、○C. Heinrich より依頼せる La morale を読む、○運動に江戸川及び大塚方面に出づ、○栗原英之助より来状、○廣田吉太郎来訪す、不遇、○夜、廣田吉太郎再び来訪す、○引続き La morale を読む、○桜花六七分開く、

四日、午前、晴天、春山育次郎、深作安文、岸田繁次郎、浦谷熊吉、堀田相爾、野口米太郎、小倉清三郎来訪す、○南摩羽峯の宅より「環碧楼遺稿」五冊を送来る、○午后、書状を瀧澤栄一に送る、○帝国大学及び宮内省より来状、○金壹百五十円の為換を岡部良英に送る、○不参届書を式部職に送る、○押田清子来談す、○Henri Bergson, Essai sur les données immédiates de la conscience を読む、○反省社より書状と菓物志籠とを送来る、○夜、La morale を読む、○教科書会より書類来る、○此春、宣

光は、暁星中学校を卒業し、正勝は尋常小学校を卒業し、高子は幼稚園の保育を畢る、

五日、午前、晴天、山中立木、足立栗園、谷内正順、加藤玄智より来状、○春山育次郎来談す、○女中千代を三井銀行に遣はす、○書状を林養直に送る、○Bergson, Essai sur les données immédiates de la conscience を読む、○縫子、正勝を拉して独逸協会学校に赴き、入学の手続を為し了る、○高等師範生松岡文七外二名来る、有故不遇、○午后、引続き Bergson を読む、○帝国大学より「大日本史料」志冊を送来る、○La morale を読む、○「新編修身」五百部「中学修身」式拾部及び「女子修身」式百部の奥附を金港堂に付与す、○夜、婦一協会及び帝国学士院より来状、○雜誌類を読む、

六日、午前、晴天、中島利一郎、浦谷熊吉、田中秀明、松原一義、牧野静及び渡辺節治外二名来訪す、○午后、哲学会に法科の廿九番室に赴く、○夜、学生集会所に会食す、○婦一協会より来状、○「中学修身」八百部の奥附を文学社に付与す、○「薩藩史談集」を読む、

七日、午前、晴天、太田秀穂より来状、○森良三郎、麻生正藏、大島直治来談す、○「中興鑑言」の序を草す、○午后、西田幾太郎、A. Heinrich 来訪す、○小包を黒木安雄に送る、○小尾杜太郎より来状、○渡辺徹、牧瀬五一郎、加藤駒二来訪す、○書状を文成社に送る、○押田清子来談す、○Bergson, Essai sur les données immédiates de la conscience を読む、○夜、九鬼隆一の「乃木大将の感化」を読む、○引続き Bergson を読む、○「薩藩史談集」を読む、

八日、午前、雨天、平塚雉鳩来訪す、○電話使用料金拾六円五拾銭を郵便局に納む、○Bergson, Essai sur les données immédiates de la conscience を読む、○午后、晚成処より小包を送来る、○「戊申詔書述義」式百部の奥附を晚成処に付与す、○引続き Bergson を読む、○青木賢次郎、蓮沼門三より来状、○Paulsen, System der Ethik を読む、○「薩藩史談集」を読む、○「実業修身」書百五十部の奥附を文学社に付与す、○夜、Paulsen, System der Ethik を読む、○「薩藩史談集」を読む、○風雨、○文部省及び文成社より来状、○歌道奨励会より「明治六歌仙」を送来る、○此日、灌仏会、○中華民国議事開会、

九日、午前、雨天、後曇、学習院に赴く、○帰途中中坂下謹吾に逢ふ、○不在中浦谷熊吉来訪す、○「実業修身」式百部の奥附を六盟館に付与す、○午后、晴天、金式拾円の為換を富田順吉に送る、○帰一協会より来状、○書状を熊本鋭郎、前川清に送る、○「大日本仏教全書」を送来る、○岡部良英より来状、○「養生訓」を読む、○夜、九鬼隆一の招宴に赴く、○竹柏会及び大塚先儒墓所保存会より来状、

十日、午前、晴天、蓮沼門三、藤田義雄及び心理学研究会より来状、○大森金五郎より「吞象楼遺稿」を送来る、○浦谷熊吉、春山育次郎来談す、○Bergson, Essai sur les données immédiates de la conscience を読む、○「吞象楼遺稿」及び「養生訓」を読む、○午后、「中学修身」式百部の奥附を金港堂に付与す、○一徳会及び日本弘道会より来状、○曹洞宗青年会員、「六大象講演」を携来る、○博文館より印税を送来る、○Bergson, Essai sur les données immédiates de la conscience を読む、○運動に植物園

方面に出づ、○夜、「吞象楼遺稿」及び「養生訓」を読む、○「国史綜覧稿」を読む、○「宗教観」六大家講演に出づ、○宣光尚有多少熱、

十一日、午前、晴天、同文館より来状、○女中千代を高等師範に遣はし、手当を受取る、○押田清子来る、○Zeller, Die Philosophie der Griechen を読む、○縫子を東海銀行に遣はす、○午后、教科書会に文部省に赴く、○中島利一郎より詩稿と書状とを送来る、○星野恒より審査報告を送来る、○「吞象楼遺稿」及び「養生訓」を読む、○詩稿を黒木安雄に送る、○修養団本部より来状、○夜、松原一義来訪す、○Zeller, Die Philosophie der Griechen を読む、○「養生訓」を読む、

十二日、午前、晴天、浦谷熊吉来談す、○書状を帝国学士院に送る、○「養生訓」を読む、○午后、「古事類苑」(飲食部)を送来る、○午后、弘道会に国学院大学に赴き、「衛生と道德との関係」を演述す、渡辺操、清水廣景、本多康虎等と会見す、○夜、帝国学士院に赴く、○「女子修身」六百部及び「新編修身」五百部の奥附を金港堂に付与す、

十三日、午前、半晴、小柴博、佐久節、國廣知二来訪す、○「国史綜覧稿」を読む、○文学博士木正辞、去る十一日を以て逝くとの報あり、享年八十七、○「吞象楼遺稿」を読む、○「実業修身」百五拾部の奥附を文学社に付与す、○午后、晴天、堀才吉、福来友吉の紹介状を携来る、○吉田雪子、押田清子来る、中洲老母七回忌に当るを以てなり、○「国史綜覧稿」及び井上頼國の「古事記考」を読む、○床屋に赴く、○庭前の八重桜及び椿皆満開なり、○国見館員来る、○夜、「古事記考」及び「吞象楼遺稿」并に「養

生訓」を読む、○此日、乃木邸東京市有となりし奉告祭を行ふ、十四日、午前、晴天、講義に大学に赴く、○哲学研究室に赴き、尋いで三浦謹之助を病院に訪ふ、○横山藤右衛門より来状、○午后、浦谷熊吉、岸田繁次郎来談す、○井上成美より「南竹文集」式拾部を送来る、○富田順吉及び文科大学より来状、○宣光、大学病院に入院す、縫子伴ひ行く、○Zeller, Die Philosophie der Griechenを読む、○齋藤基次郎来訪す、○夜、引続きZellerを読む、○益軒祭の案内状を由布惟義及び林養直に送る、○縫子、八時頃帰宅、○「吞象楼遺稿」を読む、○此日、乃木邸始めて開放せられ、一般世人の参観を許す、乃木会亦設立せらる、十五日、午前、曇天、木村正辞の計報至る、○晚成処より小包を送来る、○縫子、大学病院に赴く、○永井萬太郎より来状、○「勅語述義」参百部の奥附を晚成処に付与す、○Zeller, Die Philosophie der Griechenを読む、○清水彦五郎、昨夜逝去すとの報あり、○「吞象楼遺稿」を読む、○富山房より訳文ファウスト二冊を送来る、○午后、小雨、引続きZellerを読む、○「女子修身」一千部及び「新編修身」参百部の奥附を金港堂に付与す、○「吞象楼遺稿」を読む、○夜、研究、十六日、午前、曇天、修養団及び教科書会より来状、○学習院に赴く、○清水彦五郎を其它に弔ふ、○岸田繁次郎来る、○午后、晴天、庭園の桜花殊に好し、○教授会上山御殿に赴く、○宣光を病院に訪ふ、○文部省より来状、○菓物壺籠を清水彦五郎に送る、○女子大学より来状、○春山育次郎来訪す、○夜、杉山直喜来る、乃ち談話を速記せしむ、○林養直より来状、○益軒祭案内状を喜田貞吉、幣原坦、平塚雉鳩に送る、

十七日、午前、曇天、書状を岸田繁次郎に送る、○勉強、○縫子、病院に赴く、○林養直より益軒の遺墨三点を送来る、○午后、講義に大学に赴く、○二六新聞社員大学に来訪す、有故不遇、○根本通徳及び端艇祝捷会より来状、○岸田繁次郎をして清水彦五郎の葬式に伝通院に会せしむ、○押田清子、松原一義来訪す、○晚成処より小包を送来る、○夜、小雨、書状を岸田繁次郎に送る、○「勅語要義」式百部の奥附を晚成処に付与す、○速記を訂正す、○「史記」を読む、○此頃米国加州排日問題囂々たり、十八日、午前、晴天、芳賀矢一、廣田吉太郎及びSidney L. Gulickより来状、○浦谷熊吉、春山育次郎、岸田繁次郎来談す、○杉山直記より速記を送来る、○書状を岸田繁次郎に送る、○女中千代を文部省及び三井銀行に遣はす、○伯爵徳川達孝及び嘉納治五郎より来状、○午后、日本弘道会より御札を送来る、○書状を由布惟義に送る、○根本通徳、岸田繁次郎、中島利一郎、有馬祐政来訪す、○速記を訂正す、○夜、速記を訂正す、○東亜の光原稿を印刷所に送る、○心理学会の速記を訂正す、十九日、午前、晴天、心理学会の速記を訂正す、○渡辺徹来訪す、○午后、伊藤吉之助、Avenarius, Kritik der reinen Erfahrung, 2 Bde を携来る、○加藤末吉、「実験修身教授法」を携来る、○速記を訂正す、○上田萬年の使者来る、○教科書会より書類来る、○押田三郎、浦谷熊吉、春山育次郎、渡辺徹来訪す、○松平直亮伯の使者岡庫一、「克明抄」を携来る、○夜、速記を訂正す、○岸田繁次郎来談す、○此日、東林寺に於て中洲老母の法事を行ふ、

二十日、午前、晴天、南竹文集と菓物を坂口前、吉田熊次、押田

三郎に、南竹文集と菓子を姉崎正治に送る、○祝電を東林寺に送る、○熊坂圭三、写真を携来る、○渡辺徹来る、乃ち之に原稿を付与す、○田中義能、埜口徳太郎等来訪す、○午后、貝原益軒二百年祭を大学山上御殿に執行す、引続き講演会を法科廿九番室に開く、聴衆約参百名、〔頁下部に「益軒二百年祭 △帝大内御殿にて △頗る盛大に挙行さる」の新聞記事切抜貼付〕○夜、有志懇親会を山上御殿に開く、来会者約三十余名、○帝国学士院より来状、○此日、佐藤進古、矢野恒太、東亜協会々員となる、○東林寺に於て除幕式を行ふ、

廿一日、午前、晴天、講義に大学に赴く、○宣光を病院に訪ふ、○不在中浦谷熊吉来訪す、○三上義夫より The Development of Mathematics in China and Japan を送来る、○「実業修身」志百部の奥附を六盟館に付与す、○和田萬吉を大学図書館に訪ひ、「南竹文集」を寄附す、○午后、「中学修身」志百五十部の奥附を文学社に付与す、○「南竹文集」を国民新聞、時事新報、東京朝日新聞、日々新聞、読売新聞報知及び萬朝報の七社に送る、○Zeller. Die Philosophie der Griechen を読む、○ライプチヒの書肆 B. G. Teubner より来状、○縫子、宣光を病院に訪ふ、○堀謙徳、岸田繁次郎、埜口徳太郎、齋藤勇、押田清子来訪す、○大江文城より「蘭亭会記念葉書」を送来る、○大学より「大日本古文书」志冊を送来る、○「吞象楼遺稿」を読む、○夜、帝国大学図書館より来状、○書状を独逸ライプチヒ市 B. G. Teubner に送る、○「吞象楼遺稿」を読む、○坂谷芳郎及び小林正策より来状、廿二日、午前、曇天、高子、遠足に鴻ノ台に赴く、○浦谷熊吉来談す、○ギュリックの著書の序文を草す、○塚本與三郎より「青

山学院校友会々報」を送来る、○午后、小雨、序文を草し了りて之を Sidney L. Gulick に送る、同時に「諸科学の性質及び関係」の原稿を送返す、○アルツール、キルヒホフより Zeitung Der Zeitungen 及び書類を送来る、○桑木嚴翼より来状、○研究、○四時頃高子帰来る、○夜、カント誕辰会を山上御殿に開き、「カントの人格性行及び位置」に就き、一場の講演をなす、来会者約五十名、頗る盛会なりき、

廿三日、午前、小雨、学習院に赴く、○「実業修身」志百部の奥附を六盟館に付与す、○土屋新之助より来状、○春枝、風邪に罹り、発熱す、○午后、曇天、田中秀明、由布惟義より来状、○Zeller. Die Philosophie der Griechen を読む、○小林義則より来状、○「修身備考」式百部の奥附を文学社に付与す、○渡辺眞、春枝を来診す、○女中つるを大病院に遣はす、○大和田眞彦来訪す、○夜、晴天、勉強、○「吞象楼遺稿」を読む、

廿四日、午前、晴天、孔子祭典会より来状、○文明協会より「死の研究」及び「舞踊と歌劇」を送来る、○勉強、○午后、勉強、○講義に大学に赴く、○加藤玄智と会談す、○宣光を病院に訪ふ、○夜、日本学会に山上御殿に赴く、坪井九馬三及び小林丑三郎の講演あり、来会者約二十四五名、○日之出生生命保険会社等より来状、○根津神社宮司宮西惟助、東亜協会々員となる、

廿五日、午前、晴天、春山育次郎来訪す、○午后、計見東山より後楽園参観券を送来る、○「教界春秋」を草し了りて之を印刷所に送る、○「養生訓」を読む、○大学より「大日本史料」を送来る、○夜、「養生訓」を読む、○Vervorn, Allgemeine Physiologie を読む、○「吞象楼遺稿」を読む、

廿六日、午前、曇天、浦谷熊吉来談す、○ Zeller, Die Philosophie der Griechen を読む、○「養生訓」を読む、○武島又次郎より来状、○午后、押田清子来る、○「養生訓」を読む、○丁酉倫理会に多賀羅亭に赴く、○坪野平太郎、隈本有尚、岡田哲藏等と会見す、○夜、帰一協会、星野教授祝賀会及び姉崎正治より来状、○「尚書集解」の序を作る、

廿七日、午前、曇天、濃霧、春山育次郎来る、乃ち之に東軒真筆の「克明抄」を付与す、○福来友吉の使者、書状を携来る、○「尚書集解」の序を作る、○国廣知二来る、有故不遇、○「養生訓」を読む、○午后、強風、谷内正順来訪す、○「吞象楼遺稿」を読む、○鳥村抱月より訳文「人形の家」を送来る、○雨、○「南竹文集」を小金井良精及び富士川游に送る、○研究、○井上波野より絵葉書を送来る、○「国典十講」を読む、○縫子、不快を思ふ、○夜、杉山直喜来る、乃ち談話を速記せしむ、○「国典十講」を読む、○晩成処より小包を送来る、

廿八日、午前、小雨、講義に大学に赴く、○宣光を病院に訪ふ、○「師範修身」式百五十部の奥附を晩成処に付与す、○「実業修身」志百部の奥附を六盟館に付与す、○午后、Zeller, Die Philosophie der Griechen を読む、○貞金近松来談す、○夜、杉山直喜来る、乃ち談話を速記せしむ、○吉田静致及び工藤卓爾より来状、○松原一義来る、乃ち之に「尚書集解」序を付与す、○此日、縫子春枝皆恢復、宣光亦殆ど恢復、

廿九日、午前、曇天、村岡素一郎より来状、○ Zeller, Die Philosophie der Griechen を読む、○浦谷熊吉及び押田清子来談す、○吉田静致来る、乃ち之に Avenarius, Kritik der reinen

Erfahrung を貸与す、○午后、晴天、帝国学士院の委員会に上野に赴く、○櫻井錠二、姉崎正治及び江川壽太より来状、○速記を訂正す、○教員検定委員会より来状、○夜、引続き速記を訂正す、○益軒の書三幅を林養直に送返す、○女中千代を病院に遣はす、○書状を林養直に送る、○ Zeller, Die Philosophie der Griechen を読む、○「養生訓」及び「吞象楼遺稿」を読む、○此頃、排日問題愈々紛糾を極む、

三十日、午前、晴天、文成社及び晩成処より来状、○書状を岩田僊太郎、結城三次及び黒河長次郎に送る、○靖国神社大祭の故を以て学習院休講、○ Zeller, Die Philosophie der Griechen を読む、○森良三郎来る、○瀬戸虎記より来状、○午后、曇天、教授会に山上御殿に赴く、○宣光を病院に訪ふ、○野村逸民写真を携来る、○工学博士中村達太郎の為、参円を、故穂積博士の為、参円を寄附す、○文成社の使者来る、○夜、松原一義、岸田繁次郎来訪す、○勉強、

五月

一日、午前、曇天、濫澤栄一より来状、○弓場法梁来訪す、有故不遇、○研究、○縫子、宣光を病院に訪ふ、○杉山直喜より速記を送来る、○齋藤謙藏より来状、○午后、雨天、井上成美来談す、○講義に大学に赴く、○文科大学より論文五篇を送来る、○文科大学より来状、○「東亜の光」(八の五)成る、○「孔子、教と中華、民国」東亜の光に出づ、○夜、雨歇んで強風吹く、○ Sidney L. Gulick 及び山口図書館長佐野友三郎より来状、○速記を訂正す、○加藤玄智より来状、

二日、午前、曇天、森良三郎、浦谷熊吉、土屋新之助、国廣知二、

日置健太郎来訪す、○宗兵藏及び武田耕一より来状、○村上直次郎「異国日記抄」を携来る、○速記を訂正す、○書状を貞金近松に送る、○午后、半晴、岩橋遵成の妻、参州蜜柑を携来る、○学生論文を読む、○夜、婦一協会に上野精養軒に赴く、

三日、午前、曇天、宣光を病院に訪ふ、○午后、ハーバード大学名誉教授ピーボデー博士招待会に大学山上御殿に赴く、濱尾新、相馬永胤、新戸部稲造、金子堅太郎、ローレンス等と会見す、○法科三十二番地に於てピーボデー博士の講演を聴く、○富士川游より来状、○不在中橘惠勝、茶器壺箱を携来る、○雷雨、○縫子、病院に赴く、○宣光全快、退院して帰る、○松原一義「尚書集解」を携来る、○文科大学の使者来る、乃ち之に学生の論文を付与す、○高賀誼三郎、東亜協会々員となる、○夜、雨天、日置健太郎、岡部良英、服部一郎より来状、○勉強、○此日、「女子修身」一百部及び「中学修身」一百部の奥附を金港堂に付与す。

四日、午前、全晴、中村宗作及び渡辺藤左衛門より来状、○日本女子大学校に赴き、「実人生に就いて」一場の演説をなす、○不在中篤克彦、古城貞吉、田中義能及び橘惠勝来訪す、○外相牧野男爵より来状、○Rudolf Eucken, Der Sinn und Wert des Lebens を読む、○午后、「国典十講」を読む、○縫子、兎輩を携へて吉田宅に赴く、○富田三省より来状、○夜、「国典十講」を読む、

五日、午前、晴天、講義に大学に赴く、○三浦謹之助を病院に訪ふ、○午后、橘惠勝、森良三郎来訪す、○春枝、遠足に大磯に赴く、○書状を牧野外相に送る、○「大日本仏教全書」を送来る、○夜、ピーボデー歓迎会に上野精養軒に赴く、菊池大麓、新戸部稲造、グリーン、マッコレー、床次竹二郎、添田壽一、塩沢昌貞、浮

田和民等と会見す、○不在中宮本和吉、「新理想主義の哲学」を携来る、○教科書会より来状、

六日、午前、晴天、大場豊吉より来状、○浦谷熊吉来談す、○益之進、遠足に稲毛に赴く、○岡山県師範学校長中島次郎吉より花簾四枚を送来る、○Ueberweg, Grundriss der Geschichte der Philosophie 及び Zeller, Grundriss der Geschichte der Griechischen Philosophie を読む、○在独逸友枝高彦より絵葉書来る、○午后、曇天、土屋新之助来る、乃ち談話を筆記せしむ、○岸田繁次郎来談す、○史料編纂掛より書状と書籍数種を送来る、○運動に久堅町方面に出づ、○勝島林藏より来状、○夜、勉強、

七日、午前、晴天、中島次郎吉、巽彦一より来状、○学習院に赴く、○午后、Sidney L. Gulickより来状、○姉崎正治来談す、○貞金近松、菓子壺箱を携来る、○勉強、○Ueberweg, Grundriss der Geschichte der Philosophie を読む、○夜、前橋佐藏より来状、○引続き Ueberweg を読む、○勉強、

八日、午前、晴天、景山直孝より書状と「愛媛教育」とを送来る、○Ueberweg, Grundriss der Geschichte der Philosophie を読む、○勉強、○修養団本部より来状、○午后、講義に大学に赴く、○不在中曾根松太郎来訪す、○民友社より「淮海掣音」を送来る、○「淮海掣音」を読む、○夜、マッコレー博士七十の賀筵に三縁亭に赴く、ピーボデー、グリーン、シユロヨードル、チールン、高木壬太郎、成瀬仁藏、島田三郎等と会見す、○阪了介より来状、

九日、午前、曇天、秋山悟庵、古城貞吉来談す、○「淮海掣音」を読む、○午后、教科書会に文部省に赴く、○不在中曾根松太郎、浦谷熊吉、ア、ハンリー、長江邦四郎、姉崎正治来訪す、○書状を富田三省

に送る、○統一団より速記を送来る、○夜、雨天、書状を中島次郎吉及び景浦直孝に、葉書を大場豊吉及び阪了介に送る、○「古学哲学」五拾部の奥附を富山房に付与す、○此日、山川健次郎、東京帝国大学総長となり、澤柳政太郎、京都に総長となり、眞野文二、九州に、北条時敬、東北に総長となる、

十日、午前、晴天、三上參次より来状、○浦谷熊吉、姉崎正治、押田清子来談す、○大日本家政学会員額賀綱五郎来る、乃ち之に原稿を付与す、○福来友吉より来状、○女中千代を東海銀行に遣はす、○午后、久保良英来訪す、○文科大学より論文を送来る、

○学生の論文を読む、○相原熊太郎、曾根松太郎来訪す、○久保良英又来る、○教科書会より書類来る、○ア、ハンリーより来状、○夜、福来友吉宅に赴き、高橋貞子の心理実験を見る、後藤牧太、寛克彦等亦来る、○此日、天放秋月新太郎逝く、享年七十五、

十一日、午前、晴天、廣池千九郎、寛克彦、瀧田哲太郎、三上義夫、淺野利三郎、藤沢誠太、来訪す、○縫子、児輩を拉して日比谷公園に遊ぶ、○午后、井上波野、贈物を携来る、○「国典十講」及び「大和民族考」を読む、○夜、赤司繁太郎来訪す、○杉山直喜来る、乃ち談話を速記せしむ、

十二日、午前、晴天、講義に大学に赴く、○「哲学と心理学との關係」教育学術界に出づ、○大掃除をなす、○午后、上村邦良、山田卯一郎、有馬祐政、岸田繁次郎、澁谷徳三郎来訪す、○文科大学より使者来る、乃ち之に論文二篇を付与す、○「尚書集解」の序文を訂正す、○文科大学より来状、○夜、学生の論文を読む、十三日、午前、雨天、姉崎正治、工藤卓爾、及び水道橋稅務署、陽明学会、日之出生命保險会社より来状、○浦谷熊吉来談す、○速

記を訂正す、○午后、「南竹文集」を工藤卓爾に送る、○速記を訂正す、○「衛生と道德との關係」弘道に出づ、○学生の論文を読む、○家政学会の額賀綱五郎来る、乃ち之に原稿を付与す、○夜、岸田繁次郎来談す、○学生の論文を読む、

十四日、午前、晴天、学習院に赴く、○「大軍を率ゐて」を学習院より受く、○午后、教授会に山上御殿に赴く、○山川健次郎及び北条時敬と会見す、○井芹經平より来状、○文科大学より論文六篇を送来る、○松原一義来る、乃ち之に「尚書集解」の序を付与す、○夜、勉強、

十五日、午前、曇天、文学社より「中学修身備考」二冊を、文明協會より「趨異遺伝及進化」と「社会統制論」とを送来る、○勉強、○午后、曇天、講義に大学に赴く、途上笹倉新治に逢ふ、○不在中岸田繁次郎来る、○夜、雨天、暁星学校長アンリーの招待に赴く、○岸原鴻太郎より「報恩編毒語政教論」を送来る、○建部遯吾より来状、○此日、「女子修身」二百部の奥附を金港堂に付与す、十六日、午前、雨天、撰氏十四度、澁谷徳三郎より来状、○日本大学より「日本大学学則要抄」を送来る、○杉山直喜来る、乃ち談話を速記せしむ、○塘茂太郎、御礼の為に来る、○瀧田哲太郎来訪す、○東亜協會々計部より来状、○午后、三上勝及び三井知恵子の結婚の披露に三井集会所に赴く、○「勅語教本」二百部の奥附を晚成処に付与す、○侯爵前田利為より書状と「遼東志」とを送来る、○「大和民族考」を読む、○工藤卓爾より来状、○夜、法学士戸崎憲吉来訪す、○「大和民族考」を読む、○書状を貞金近松に送る、○東亜協會の案内状を發送す、

十七日、午前、晴天、浦谷熊吉、岸田繁次郎、深作安文、渡部館来

訪す、○書状を前田利為に送る、○学生の論文を読む、○南竹文集巻部を深作安文に付与す、○午后、瀧田哲太郎来る、乃ち談話を筆記せしむ、○学生の論文を読む、○杉山直喜より速記を二回に送る、○速記を訂正す、○宣光、吉田宅に赴く、○運動に巢鴨に赴く、○帝国教育会より来状、○夜、学生の論文を読む、○此頃東亜協会特別会員八百二十名、

十八日、午前、晴天、Ueberweg, Grundriss der Geschichte der Philosophie を読む、○補永茂助来訪す、○午后、東亜協会講演大会に法科大学三十二番室に開く、聴衆約四百名、○夜、東亜協会評議員会に山上御殿に赴く、○桑木巖翼より「時代の価値」を送る、

十九日、午前、晴天、講義に大学に赴く、○午后、石川岩吉、「国体要義」を携来る、○藤沢誠太、阪了介及び文科大学より来状、○速記を訂正す、○岸田繁次郎来談す、○夜、有風、○伊藤吉之助来訪す、○原稿を日清印刷会社に送る、○貞金近松より来状、○書状を熊本鋭郎に送る、○石川岩吉より「寛博士の二論文」を送る、○学生の論文を読む、○此頃、「実人生に就いて」家庭週報に出づ、

二十日、午前、雨天、幣原坦、浦谷熊吉来訪す、○書状を佐藤三吾に送る、○磯野七平より縫子に來状、○縫子、電話交換局及び三越に赴く、○午后、金港堂より「中学修身」の備考五冊を送来る、○書状を伊波普猷に送る、○文科大学より来状、○学生の論文を読む、○密教社々員来る、乃ち談話を筆記せしむ、○野田義夫来訪す、○夜、曇天、学生の論文を読む、○書状を浦谷熊吉に送る、廿一日、午前、曇天、正勝、遠足に鎌倉に赴く、○学生の論文を読む、

○午后、晴天、書状を太田秀穂、藤澤誠太に送る、○「師範修身」一百部の奥附を金港堂に付与す、○文科大学の使者、論文を携来る、乃ち又之に他の論文を付与す、○Ueberweg, Grundriss der Geschichte der Philosophie を読む、○東京音楽学校及び心理学通俗講話会より来状、○春枝を押田宅に遣はす、○「朱子哲学」五拾部及び「陽明哲学」五拾部の奥附を富山房に付与す、○角田吉三郎、「聖蹟画観」を携来る、○夜、勉強、○吉田雪子来訪す、○帝国学士院より来状、○地震、

廿二日、午前、晴天、同文館より来状、○勉強、○午后、講義に大学に赴く、○大学図書館に赴く、○夜、幣原坦及び高楠順次郎の送迎会に山上御殿に赴く、○仏教史学会より来状、○不在中宮本和吉来訪す、

廿三日、午前、晴天、宮本和吉、小杉熙、水嶋耕一郎来訪す、○「実人生に就いて」家庭週報に出づ、○学生の論文を読む、○書状を朝鮮古書刊行会及び藤井健治郎に送る、○浦谷熊吉来談す、○午后、長谷川熊太郎より書状二通来る、○民友社員、渡辺某来る、乃ち談話をなす、○書状を文成社に送る、○女中千代を大学に遣はす、○学生の論文を読む、○文部省より「古今圖書集成分類目錄」を送来る、○姉崎柚子来談す、○「師範修身」一百部の奥附を金港堂に付与す、○永井潜より「日新医学分刷」を送来る、○聖上御不予の報あり、症状は肺炎、○齋藤庸一郎より縫子に來状、○夜、学生の論文を読む、○藤井健治郎より来状、

廿四日、午前、晴天、三坂亥吉より来状、○書状を水島耕一郎に送る、○「教育と修養」式百部の奥附を弘道館に付与す、○学生の論文を読む、○書状を大塚保治に送る、○「東亜の光」口絵解題を印

刷所に送る、○文科大学の使者来る、乃ち之に論文二篇を付与す、
○「宮城外の祈願者に関する談話」国民新聞に出づ、○午后、「教
界春秋」を草す、○夜、丸善に赴き、店員壱百数十名の為に「三
宝の話」をなす、○十時頃帰宅、此日、野田義夫及び押田三郎を
招宴す。

廿五日、午前、晴天、「理想主義の永久的価値」中外日報に出づ、
○鼓常良、「ファウスト評論」を携来る、○谷内正順、葉山萬次郎、
淺野利三郎来訪す、○午后、春季哲学会大会に大学に赴く、○夜、
哲学会評議員会を山上御殿に開く、○九時半頃帰宅、○此日濱家
熊雄より来状、○別号を陽州散人と定む、○山田孝雄、「奈良朝
文法史」を携来る、

廿六日、午前、晴天、講義に大学に赴く、○「東洋哲学史概説」を
講了す、○坪井正五郎宅を訪ふ、○不在中高山昇及び花輪郡藏来
訪す、○午后、及川澄清、長田偶得の紹介状を携来る、○「教界
春秋」を草す、○花輪郡藏、浦谷熊吉及び慶應義塾生徒二名来訪
す、○文科大学及び島本愛之助より来状、○「教界春秋」を草し
了りて之を印刷所に送る、○文科大学の使者来る、乃ち之に論文
二篇を付与す、○夜、学生の論文を読む、○帝国学士院より来状、
○此日、理学博士坪井正五郎逝く、享年五十一、

廿七日、午前、曇天、井芹經平来訪す、○学生の論文を読む、○書
状を帯刀次六に送る、○清水眞子より来状、○午后、雨天、浦谷
熊吉、岸田繁次郎来談す、○学生の論文を読む、○文科大学及び
姉崎正治等より来状、○大塚保治及び加藤三吾より来状、○加藤
三吾より「琉球の研究」及び「平戸しるべ」を送来る、○「宮本
武蔵」を読む、○夜、文部省より書類及び教科書五冊を送来る、

○「宮本武蔵」を読む、

廿八日、午前、快晴、学習院に赴く、○女学部は皇太后の誕辰に当
るを以て休講、○「宮本武蔵」を読む、○午后、教授会に山上御
殿に赴く、○「吞象楼詩鈔」の謄写を三上参次に托す、○黒木安
雄より詩稿壱包を送来る、○中島力造より「新著梗概」を寄来る、
○野田義夫より来状、○Ueberweg, Grundriss der Geschichte
der Philosophie を読む、○勉強、○夜、引き続き Ueberweg,
Grundriss der Geschichte der Philosophie を読む、○勉強、○金
港堂より来状、

廿九日、午前、曇天、帰一協会及び川島甚兵衛より来状、○鶏
卵と布片とを岸田繁次郎に送る、○Ueberweg, Grundriss der
Geschichte der Philosophie を読む、○勉強、○午后、講義に大
学に赴く、○森風声及び朝鮮古書刊行会より来状、○「宮本武蔵」
を読む、○夜、引き続き「宮本武蔵」を読む、○文科大学より来状、
○吉田熊次夫妻来談す、○藤田季莊来訪す、○帝国学士院より来
状、

三十日、午前、曇天、坪井正五郎の計報来る、○府税市税金拾参円
九拾銭、及び水料金六円六銭、合計金拾九円九拾六銭を郵便局に
納む、○浦谷熊吉来談す、○星野教授在職二十五年祝賀会の為に
金式拾円を払込む、○申告書を水道橋稅務署に送る、○午后、徳
川達孝、朱輔基、後藤秀穂来訪す、○「宮本武蔵」を読む、○夕
景雨歇天霽、○加藤駒二及び愛人会より来状、○「婦人覚醒の意
義を誤解する勿れ」中央公論に出づ、○夜、晴天、「宮本武蔵」
を読む、○「本朝武芸小伝」を読む、○小林義則より来状、○此
日、Sir John Lubbock 逝去の報あり、

廿一日、午前、快晴、森良三郎、井芹經平、加藤玄智来訪す、○縫子、雪子清子等と華族会館に赴く、○午后、伊藤吉之助、大和田眞彦来訪す、○文成社より使者来る、○Max Verworin, Allgemeine Physiologieを読む、○夜、成功雜誌社及び幣原坦より来状、○金港堂より使者来る、○「東亜の光」(八の六) 成る、○「国体と政体との関係」東亜の光に出づ、

六月

一日、午前、晴天、田中義能来訪す、○「教育と文芸」の序文を草す、○先月三十日以来電灯五箇を新設し、漸く全く成る、○春枝、益之進、高子、家族会に横浜本牧に赴く、○午后、「教育と文芸」の序文を草す、○帯刀次六より書状と「帆足萬里」を送来る、○運動に小日向方面に出づ、○夜、木村鷹太郎より書状と「日本太古小史」を送来る、○序文を淺野利三郎に送る、○八時頃児輩帰来る、○学生の論文を読む、○「宮本武蔵」を読む、

二日、午前、晴天、哲学及哲学史の口述試験を行ふ、○縫子を三井銀行に遣はず、○午后、淺野利三郎より来状、○森良三郎、浦谷熊吉来談す、○木下貞太郎及び乾菊栄より来状、○夜、築地精養軒に赴く、八代六郎、本郷房太郎、床次竹次郎、矢野茂、浮田和民等と会见す、○此日、宣光、願書を高等学校に出す、○江川壽太より来状、

三日、午前、晴天、淺野利三郎より来状、○加藤玄智の使者、書状を携来る、○書状を江川壽太、帯刀次六、圓藤鎮、加藤三吾に送る、○岸田繁次郎来談す、○「女子修身」五拾部の奥附を金港堂に付与す、○「宮本武蔵」を読む、○午后、曇天、東亜協会の勧誘状を草す、○深作安文来る、乃ち之に朝吹英二宛の紹介状を付

与す、○反省社より菓物壺籠と書状を送来る、○井上末より縫子に書状を送来る、○文科大学より来状、○文部省より軍人勅諭及び戊申詔書の英訳を送来る、○教科書会より書類来る、○運動に植物園方面に出づ、途に雨に逢ふ、○河原赫一より来状、○夜、雨天、書状を岸田繁次郎に送る、○文成社及び音楽学校より来状、○書状を貞金近松、熊本鋭郎、長谷川熊太郎に送る、

四日、午前、曇天、学習院に赴く、○松本源太郎より「現代教育主義の弊及其救済法」を寄贈し来る、○家政学会より「処世大鑑」を送来る、○「大日本仏教全書」二冊来る、○午后、文成社より使者来る、○北澤写真館に赴く、尋いで瀬戸虎記を高等学校に訪ふ、○博品館に赴く、○伊藤忠成より来状、○「宮本武蔵」を読む、○夜、文成社より来状、○書状を河原赫一に送る、○Max Verworin, Allgemeine Physiologieを読む、○「宮本武蔵」を読む、

五日、午前、雨天、大学に赴き、心理学科の口述試験を行ふ、○文科大学及び安達鍊造より来状、○「宮本武蔵」を読む、○岸田繁次郎より日本学会の案内状拾枚を送来る、○午后、伊藤忠成より小包を送来る、○押田清子来談す、○「宮本武蔵」を読了す、○文科大学より論文二篇を送来る、○夜、辻本卯藏より来状、○Max Verworin, Allgemeine Physiologieを読む、

六日、午前、雨天、帝国学士院より来状、○大学に赴き、倫理学科の口述試験を行ふ、○不在中浦谷熊吉、及川澄清来訪す、○書状を貞金近松に送る、○午后、Max Verworin, Allgemeine Physiologieを読む、○阪了介より来状、○夜、婦一協会に上野精養軒に赴く、本多日生の「法華経より見たる仏教」の講演あり、○十時頃帰宅、

七日、午前、雨天、浦谷熊吉、吉田雪子来談す、○縫子、買物に三越に赴く、○Max Verworm, Allgemeine Physiologie を読む、○日本学会案内状五通を発送す、○午后、書状を乾菊榮に送る、○女中きをに書状を托し、姉崎宅に遣はす、○Henri Bergson, Matière et mémoire を読む、○教科書会より書類来る、○夜、日本学会に山上御殿に赴く、宇野哲人、塩澤昌貞の講演あり、○雨歇む、○十時半頃帰宅、○土谷佐太郎より来状、
 八日、午前、晴天、書状を二回帝国学士院に送る、○曾根松太郎来訪す、○Henri Bergson, Matière et mémoire を読む、○縫子、高師附属小学校父兄懇話会に赴く、○藤澤誠太より来状、○午后、縮緬壹反に書状を添へて三浦謹之助に、縮緬の兵児帯に書状を添へて塩谷不二雄に送る、○芳賀矢一来訪す、○杉山直喜来る、乃ち談話を速記せしむ、○縫子、春枝と共に音楽学校演奏会に赴く、○夜、明治聖徳記念学会に偕行社に赴き「日本文明研究の必要」に就いて一場の講演をなす、南條文雄、鈴木信仁、伊崎少将等と会見す、○江川壽太より来状、○三浦謹之助より書状を携へて反物を返来る、
 九日、午前、晴天、東洋哲学史概説の修了試験を行ふ、○上野竹之台に之き大平洋画会を觀る、○午后、曇天、貞金近松来談す、○北隆館より草書大辞典二冊を送来る、○文科大学及び塩谷不二雄より来状、○在独国莱府友枝高彦、書状を添へて一論を送来る、○教科書会に文部省に赴く、○会了りて後江木千之と懇談す、○夜、晚餐を三河屋をなして神田の各書肆を訪ひ、書籍三部を購入す、○八時頃帰宅、○文科大学より試験答案を送来る、○B.G. Teubnerより来状、○不在中大島正徳、白石実三来訪す、○「女

子修身」一百部の奥附を金港堂に付与す、○婦一協会より First Report of the Association Concordia of Japan 一冊を送来る、
 十日、午前、晴天、浦谷熊吉来談す、○縫子を正金銀行支店に遣はす、○為換を封入せる書状を正金銀行支店に送る、○栗園余稿を読む、○加藤玄智、ハンケチ打を携来る、○杉山直記より速記を送来る、○午后、南風、文成社の使者、書状と時計とを携来る、○速記を訂正して之を弘道館に送る、○書状を文科大学に送る、○岸田繁次郎来談す、○夜、新旧大学総長送迎会に植物園に赴く、○上杉慎吉より来状、
 十一日、午前、曇天、学習院に赴く、○午后、小雨、教授会に山上御殿に赴く、○加藤房藏来訪す、○夜、雨天、学生の試験答案を読む、○Fifth international Congress of Philosophy, 1915 及びグリーン博士叙勲祝賀会より来状、
 十二日、午前、晴天、横浜正金銀行及び辻本卯藏より来状、○在琉球那覇伊波普猷より絵葉書来る、○試験の答案を読む、○午后、押田清子来談す、○西洋哲学史概説の修了試験を行ふ、○「武芸小伝」を読む、○教科書会より来状、○帝国学士院に赴く、○高峰讓吉と会見す、○文科大学及び文成社より来状、○伊波普猷より「古琉球」及び絵葉書を送来る、○夜、十時頃帰宅、○不在中文科大学より試験の答案を送来る、○「実人生に就いて」家庭週報に出づ、
 十三日、午前、晴天、藤澤誠太より来状、○浦谷熊吉、鏑木某、及川澄清来訪す、○兒玉実徳、ハンケチ打を携来る、○縫子を正金銀行支店に遣はす、○民友社より「樸翁稗説」を送来る、○「武芸小伝」を読む、○午后、龍山義亮より来状、○教科書会に文部

省に赴く、○試験の答案を読む、○女中千代を東海銀行に遣はす、
○夜、「武芸小伝」を読む、○硫酸会社より来状、○北澤写真館
より写真を送来る、○岸田繁次郎来る、○試験答案を読む、

十四日、午前、曇天、井芹経平より来状、○文明協会より「近代犯
罪学説」及び「近世応用電気学」を送来る、○多木悦造、深作安文、
浦谷熊吉、岸田繁次郎、森良三郎、大島正徳来訪す、○「古事類苑」
（地部二）を送来る、○押田三郎、横浜郵便局電話課長を命ぜら
る、○午后、兒玉實徳、押田三郎来訪す、○縫子、押田宅に赴く、
○北澤写真館に赴く、○雨、○試験答案を読む、○伊波普猷琉球
より、若守義孝、イエナより書状を送来る、○夜、雨天、学生の
答案を読む、

十五日、午前、雨天、「益軒の修養及び著書」読売新聞に、「弘法大
師に対する感想」密教世界に出づ、○高田忠周、「説文捷要」、「漢
字系譜」及び「漢字詳解」を携来る、○白石実三来る、乃ち談
話を筆記せしむ、○黒田侯の詩稿を読む、○蓮沼門三より来状、
○午后、半晴、黒田侯の詩稿を読む、○書状を安達鉄造に送る、
○学生の答案を読む、○帝国学士院より来状、○東亜協会勧誘状
を佐々木信香、福井彦次郎、八木繁四郎、雀部顯宜、木幡忠、小
林嘉平治に送る、○夜、晴天、通俗教育普及社より来状、○学生
の答案を読む、

十六日、午前、曇天、原田稔甫、山口袈裟六、深作安文来訪す、
○学生の答案を読む、○安東守男、「安東省菴」三部を携来る、
○午后、雨内紫明、川守田武一、鈴木貞吉、乾菊栄、岸田繁次郎、
武藤儀亮、中島利一郎来訪す、○杉山直喜来る、乃ち談話を速記
せしむ、○「安東省菴の学説」安東省菴に出づ、○夜、和田垣謙

三、神保小虎、入澤達吉、高楠順次郎、三好学等の送迎会に山上
御殿に赴く、○「本朝武芸小伝」を読む、

十七日、午前、晴天、学生の答案を読む、○女中千代を学習院に遣
はす、○浦谷熊吉来談す、○菓子を押田三郎に送る、○午后、曇
天、学生の答案を読む、○小谷重来談す、○女中千代を三井銀行
に遣はす、○縫子、清子と共に外出す、○グリーン叙勲祝賀会に
上野精養軒に赴く、塩澤昌貞、高木壬太郎、早川千吉郎、麻生正
藏、根本正、海老名彈正等と会見す、○夜、十時過帰宅、○杉山
直記を送来る、○奥田義人より来状、○「国際調査会官制廢止相
成随て委員の職も自然廢職と相成候」旨通知し来る、○教科書会
より書類来る、

十八日、午前、晴天、三坂亥吉及び明治聖徳記念学会より来状、
○工藤高治より「藤廼舍集初篇」（上）を送来る、○学習院女学
部に赴く、○工藤高治より来状、○速記を訂正す、○午后、曇天、
速記を訂正す、○浦谷熊吉来談す、○縫子、高子を拉して運動に
外出す、○夜、原稿を印刷所に送る、○学生の答案を読む、○縫
子、歯痛を患ふ、

十九日、午前、曇天、澁澤栄一及び井原豊作より来状、○縫子、歯
医者に赴く、○古川黄一來訪す、○学生の答案を読む、○安達峰
一郎より来状、○三上義夫より英語論文一篇を送来る、○押田清
子来談す、○午后、学生の答案を読む、○吉田雪子来談す、○高
子、水泡瘡を、縫子、神経衰弱を憂ふ、○夜、晴天、旧十五夜に
当る、○学生の答案を読む、

二十日、午前、晴天、富山房より談話筆記を送来る、○来島正時よ
り「勅語読本」を送来る、○学生の答案を読む、○堀才助、常盤

大定来訪す、○午后、九鬼周造、浦谷熊吉、建部遜吾、大島正徳来訪す、○学生の答案を読む、○夜、哲学会に山上御殿に赴く、○黒木安雄より黒田侯の詩稿を送来る、○此日、乃木会より来状、○縫子、押田宅に赴く、

廿一日、午前、晴天、和辻哲郎より来状、○福井晋太郎来訪す、○学生の答案を読む、○押田夫妻及び吉田雪子来る、乃ち与に俱に昼餐をなす、○午后、押田夫妻、横浜に向つて出發す、春枝、正勝、益之進送りて新橋に至る、○黒田侯の詩稿を読む、○井上波野来談す、○詩稿を中島利一郎に送る、○夜、南千住の通俗教育会に赴き、「神道と国民性」を演述す、○吉田利利兵衛(町長)、田中中太郎(助役)、石山義完(社司)等と会見す、○帰途加藤咄堂と車中に逢ふ、○教科書会及び福井晋太郎より来状、

廿二日、午前、雨天、花輪郡藏、貞金近松来訪す、○学生の答案を読む、○午后、曇天、引続き学生の答案を読む、○日清印刷会社より「東亜の光」口絵を送来る、○丁酉倫理会に大学に赴く、○夜、晴天、九時頃帰宅、○不在中渡部董之介来訪す、○多木悦造、菓子箱を携来る、○松浦厚及び小谷重より来状、○素行会より「山鹿素行先生と乃木將軍」を送来る、○「宗教と教育」に関する談話、日本宗教新聞に出づ、○高子稍々軽快、○学生の答案を読む、

廿三日、午前、晴天、菊池季吉より来状、○学生の答案を読む、○文科大学の使者来る、○多木悦造より来状、○午后、六盟館より印税を送来る、○浦谷熊吉、山方泰、小倉清三郎来訪す、○文科大学より使者来る、○文成社より来状、○Sidney L. Gullickより来状、○岸田繁次郎来談す、○学生の答案を読む、○永野毅、藤浪由之、秋田玄務、白井成允、東亜協会々員となる、○夜、野

上俊夫、久保良英の送別会に山上御殿に赴く、○八時半頃帰宅、○学生の答案を読む、○高子益々軽快、○此日、穂積陳重を大病院に訪ふ、○鈴木貞吉来訪す、

廿四日、午前、晴天、三上參次より来状、○学生の答案を読む、○森良三郎来談す、○地租及び家屋税合計金拾四円六拾壹錢を巢鴨村役場に納む、○文科大学の使者来る、乃ち之に試験点数を付与す、○午后、雨天、「教界春秋」を草す、○女中千代を大学に遣はす、○木越安綱、陸相を免ぜられ、楠瀬幸彦、新に陸相に任ぜらる、○多木悦造来訪す、○金港堂より報告書を送来る、○文科大学より来状、○「心書」を読む、○文科大学々友会に植物園に赴く、○夜、姉崎正治の送別会に王子澁澤邸に赴く、目賀田種太郎、豊川良平等と会見す、○十時半頃帰宅、

廿五日、午前、曇天、地久節、学習院休業、○富山房より印税を送来る、○栃木県視学兼属富田美次郎来訪す、○東京堂より「新羅史」及び「神代の研究」を送来る、○「教界春秋」を草す、○女中千代を鴻池銀行及び三井銀行に遣はす、○浅倉屋より「甲陽軍艦」二十冊を送来る、○午后、晴天、「教界春秋」を草し了りて之を印刷所に送る、○文部省より書類を送来る、○夜、北澤写真館より写真を送来る、○諸葛孔明の心書を読む、○押田清子より来状、○Kraft-Ebing, Psychopathia sexualis を読む、

廿六日、午前、晴天、文科大学の点教会議に山上御殿に赴く、○北澤写真館に立寄る、○午后、一時半頃帰宅、○不在中浦谷熊吉、濱家熊雄、伊藤吉之助来訪す、○高山房より「武田信玄」を、浅倉屋より「和論語」を送来る、○東亜協会勧誘書を加藤房藏に送る、○鈴木貞吉来る、乃ち之に雑誌類を付与す、○岸田繁次郎母来る、

○夜、伊藤吉之助来訪す、○諸葛孔明の心書を読む、○Krafft-Ebing, Psychopathia sexualis を読む、○此日、大塚先儒墓所保存会の為に金参拾円を寄附す、

廿七日、午前、晴天、角田松壽、池田敏幸来訪す、○富田美次郎より来状、○午后、浦谷熊吉来談す、○坪井正五郎の葬式に伝通院に赴く、奥田義人、志賀重昂、浮田和民、成瀬仁藏、長岡半太郎、荻野伸三郎等と会見す、○文科大学及び伯林市新開の新聞社より来状、○光雲神社々司尾崎臻より絵葉書来る、○瀨家熊雄来訪す、○「武田信玄」を読む、○夜、引続き「武田信玄」を読む、○矢野茂より来状、○書状を姉崎正治に送る、○諸葛孔明の心書を読む、○Krafft-Ebing, Psychopathia sexualis を読む、○此日、高子、殆ど全快、

廿八日、午前、曇天、伊藤吉之助来訪す、○諸葛孔明の心書を読了る、○午后、手塚光貴来談す、○Max Verworn, Allgemeine Physiologie を読む、○婦一協会及び大日本通信中学校金沢市分校より来状、○夜、帝国学士院より来状、○引続きMax Verworn を読む、○Krafft-Ebing, Psychopathia sexualis を読む、廿九日、午前、晴天、啓成社より「教育と文芸」を送来る、○森良三郎、松浦一、山口袈裟六、山岸光宣、得能文、堀田相爾来訪す、○弘道館より印税と「現代思潮十講」とを送来る、○鳥子餅を深作安文に送る、○深作安文より礼状来る、○午后、岡島誘来訪す、○神道談話会上山御殿に赴く、権田雷斧の講演あり、○掘善之丞、渡辺村男より来状、○黒木安雄より詩稿を送来る、○夜、黒田侯の詩稿を読む、○詩稿を中島利一郎に送る、○吉田熊次夫妻来談す、○Max Verworn, Allgemeine Physiologie を読む、

三十日、午前、晴天、教授会上山御殿に赴く、○縫子を三井銀行に遣はす、○「大日本仏教全書」を送来る、○片山教授在職廿五年の祝賀の為に金五円を寄附す、○午后、四宮兼之、浦谷熊吉、森良三郎、小倉清三郎、岸田繁次郎来訪す、○文成社及び金港堂の使者来る、○佐々木喜市、坂本稔、久保田勝弥、埜口徳太郎、東亜協会々員となる、○夜、山名祥治来訪す、○文部省より来状、云く、「教員検定委員会臨時委員被仰付」(六月二十八日) ○Max Verworn, Allgemeine Physiologie を読む、

(むらかみ こずえ 東京大学文書館)
(もりもと さち子) 東京大学文書館)